



高知県立牧野植物園 高精細な4K映像を楽しめる 展示施設がオープン

8月3日、高知県立牧野植物園に、220インチの大画面で高精細な4K映像を楽しめる展示施設がオープンします。

植物のリアルな3DCGを様々な角度から見ることができ、まるでチョウやハチになったかのように体感できるバーチャルリアリティが特徴です。当社では、来春までにここで上映する4作品を制作していますが、そのうちの1つ「牧野富太郎が描く植物の巧みなしくみ」(13分)が第1回作品として上映されます。

牧野富太郎は、高知県出身の植物学者で、近代植物分類学の確立に大きな役割を果たし「日本の植物分類学の父」と呼ばれています。1600以上の植物に学名を付けましたが、その基礎になったのが、自身が描いた精細な植物図です。

上映作品では、植物図に描かれた花や微細な構造をリアルな3DCGに映像化、植物の不思議な営みを紹介します。極細の筆を使い墨で描いたヒガンバナの図から、筆のタッチを生かしながら映像化した驚異的な3DCG、驚きの生存戦略を明らかにするスマレのリアルな3DCGに、当社が培ってきた制作ノウハウが生かされています。ぜひ、高知にお越しの際はご覧ください。

◆高知県立牧野植物園

- 【住所】高知県高知市五台山4200-6
- 【開園時間】午前9:00～午後5:00
- 【休園日】年末年始(12/27～1/1)
- メンテナンス休園(6/24、9/30、2020/1/27)
- 【入園料】一般720円(高校生以下無料)、団体620円(20名以上)
- 年間入園券2,880円(1年間有効のフリーパス)
- 【問い合わせ】高知県立牧野植物園 TEL:088-882-2601(代表)
- 【HP】<http://www.makino.or.jp/>



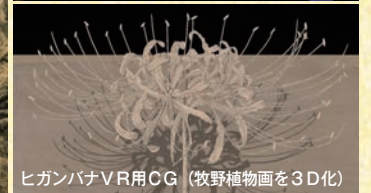
植物の世界をVRで体感する「展示館シアター」



牧野富太郎博士



シハイスマレVR用CG



ヒガンバナVR用CG(牧野植物画を3D化)



アルタイ山脈のふもと
木造家屋が建ち並ぶ遊牧民の村



伝統音楽とともにあるトゥヴァ族の暮らし



雪原に霧が立ち昇る絶景

中国初の8K編集室で誕生!

「BS8K 中国・天涯の地シリーズ」

中国の奥地、外国のTVが容易に入れない絶景の地を8Kで捉える!NEPと北京テレビが2012年から築いた協力関係があつてこそ誕生した8K紀行「中国・天涯の地」(仮、2本シリーズ)がいよいよ9月29日に放送予定です。

その1本はアルタイ山脈の自然と遊牧民を描きます。ロシア・モンゴル・カザフスタンと国境をまたぐ山脈は、太古より金を産出し草原のシルクロードを潤しました。自然は厳しく、冬は延々続く雪原に霧が立ち昇り、夏は花咲く草原に遊牧民がふたこぶラクダの群れを追い、世界最古とされるスキーを作り銀世界を移動する遊牧民・・・当社が演出を担当、中国側が技術クルーすべてを受け持つ国際共同制作です。企画の発端は北京テレビの技術陣が発した一言。「REDの8Kカメラがあるが、何か役立てたい」。すでに4Kの共同制作は実績があつたが8Kは初の試み!どうせなら編集も北京で!と意気込み、東京の技術会社から指導を受け「中国初の8K編集室」を立ち上げました。北京の技術陣が過酷な冬から撮影を始めた大自然の詩!どうぞお楽しみに。

◆「中国・天涯の地8K」(仮)

- 【放送予定】9月29日(日)NHKBS8K
- 【HP】<https://www.nhk.or.jp/bs4k8k/>

番組がドキュメンタリー映画化 「人生をしまう時間(とき)」

9月21日(土)
より
公開決定!

人はどこでどう死ぬのが幸せなのか? それを知りたくて、取材をはじめました。多くの人が家で死にたいと願い、国や自治体は医療費削減などのために在宅医療を進めています。しかし、現実には、老々介護で介護者が疲弊し、貧困や家族関係の問題を抱えていたり、「理想の死」とは言えない状況です。そんな中、埼玉県のある町で「在宅死」と向き合う老医師がいました。小堀鷗一郎医師(80歳)。森鷗外の孫にあたり元東大の外科医として医療に携わり、たどり着いた最後の現場が在宅の終末期医療でした。

厳しい事情を抱えながらも、家で安らかに死にたいという患者の願いを叶えるべく、模索する小堀医師ら在宅医療チームの日々を、自らカメラを回して見つめました。こうして制作したBS1スペシャル「在宅死“死に際の医療”200日の記録」が当社の展開プロデューサーとタッグを組んで映画となり書籍化も決定!

一つの番組から、NEPインハウスのチカラで様々な展開が実現しました。是非、劇場に足を運んでいずれば誰にでもやってくる「人生のしまい」を考えていただけたらと思います。

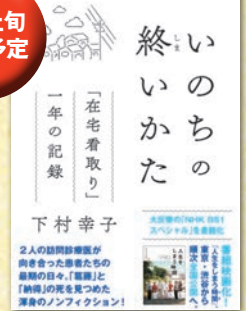
なぜなら、それは「今をどう生きるか」に繋がっていることだから。

◆「人生をしまう時間(とき)」

- 【公開】9月21日(土)
- 【監督】下村幸子(NEP)
- 【プロデューサー】福島広明
- 【撮影】下村幸子【編集】青木観帆
- 【制作】NHKエンタープライズ
- 【製作】NHK
- 【配給】東風
- 【HP】<https://jinsei-toki.jp/>



9月上旬
発売予定



宮崎駿のオリジナル作品を舞台化 「最貧前線」

8月27日(火)
公演
スタート!

宮崎駿のオリジナル作品が、国内で初めて舞台化されます。その名も「最貧前線」。水戸芸術館主催で、脚本を芸術監督の井上桂氏が担当、演出は当社ドラマ番組の一色隆司が担当します。出演は、内野聖陽、風間俊介、溝端淳平、ベンガル他の皆さんで、8月27日(火)の横浜公演を皮切りに10月末まで全国8か所で巡演予定です。

「最貧前線」は、「宮崎駿の雑想ノート」の5頁の小品が原作で、これまで長編アニメ「紅の豚」もここから生まれました。太平洋戦争末期に徴用された漁船と元々の乗組員、そして、軍人達が様々な出来事を通じて心を通わし、生きるということに真正面から向き合っていく命と絆の感動物語です。

実現までに3年ぐらいかかりましたが、井上氏のこの作品に対する思いが詰まった脚本に、宮崎駿さんも舞台化に快諾いただき実現しました。あとは、演出力…となる訳ですが、この原作、このキャスト、そして、この脚本で面白くない訳がなく、スタッフ・キャストの熱量を感動に結びつけられるようしっかり取り組んでいきます! ぜひご覧下さい!



©Studio Ghibli

◆舞台「最貧前線」

- 【公開】8月27日(火)~全国8か所巡演予定
(東京公演:10月5日(土)~13日(日))
@世田谷パブリックシアター)
- 【出演】内野聖陽、風間俊介、溝端淳平、ベンガルほか
- 【原作】宮崎駿 【脚本】井上桂 【演出】一色隆司(NEP)
- 【HP】<http://poorfront310acm.com>